

いわき市永崎地先におけるウニの密度調査結果

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

19-05-09、57

2 担当者

平川直人・和田敏裕・松本育夫

3 要旨

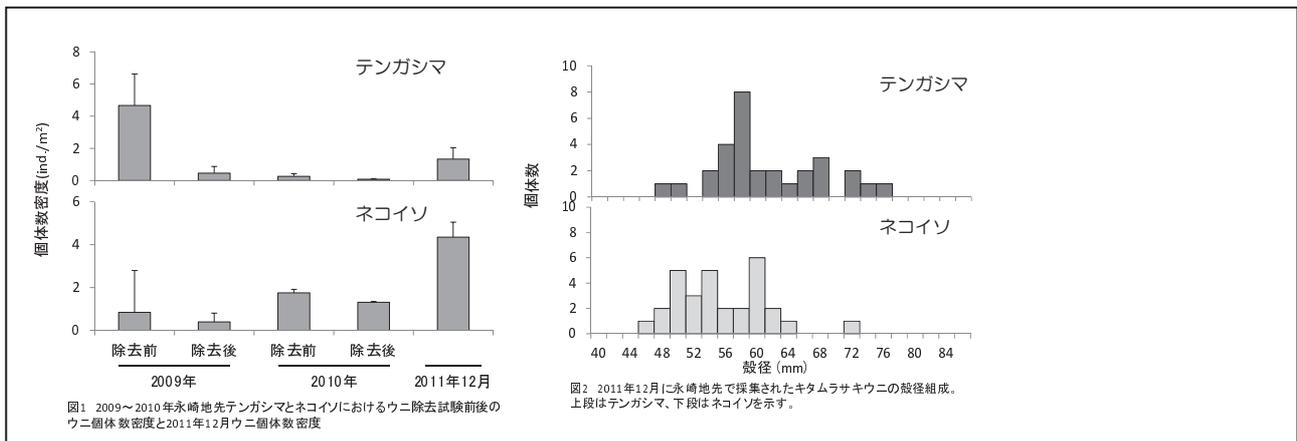
東日本大震災により、いわき市沿岸部は大きな被害を受け、津波による磯根資源の死亡や移出が懸念された。環境生態系保全活動支援事業対象地区であるいわき市永崎地先では震災以前からウニ除去による藻場回復検証試験を行っており、詳細なウニ個体数密度のデータが得られている。そこで本研究は、永崎地先における震災前後のウニ個体数密度調査結果をもとに東日本大震災がウニ資源に与えた影響を評価することを目的とした。

(1)潜水調査は永崎地先のテナガシマ(通称)とネコイソ(同)の2調査点で行った

(2)震災後の2011年6月に行った水中カメラによる調査ではウニはほとんど確認されなかったが、2011年12月の潜水調査では多数のウニが確認された。

(3)2011年12月のウニ個体数密度はテナガシマ、ネコイソそれぞれ1.33個/m²、4.34個/m²であり、2010年ウニ除去後の個体数密度より高かった(図1)。

(4)2011年12月に各調査点で採集されたウニは殻径40mm以上であり、2歳以上の個体であると考えられた(吾妻, 1997)。したがって、これらのウニは津波により漁場外に移送され、その後移動してきた個体と推察された(図2)。



4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成23年度

(2) 研究課題名 漁場環境保全技術に関する研究(津波被害に対応した藻場・干潟調査)

(3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

(1) 吾妻行雄, 松山恵二, 中多章文, 川井唯史, 西川信良, 1997: 北海道日本海沿岸のサンゴモ平原におけるウニ除去後の海藻群落の遷移. 日水誌, 63, 672-680